

2018 軽井沢高原文庫・夏季特別展

新しい世界文学へ

加藤周一・中村真一郎・福永武彦
マチネ・ポエティック、モスラ…（仮称）

2018年7月21日（土）～10月8日（月・祝） 会期中無休

- 開館時間：午前9時～午後5時 ■ 入館料：大人700円、小中学生300円 ■ 主催：軽井沢高原文庫
- 後援：長野県、長野県教育委員会、軽井沢町、軽井沢町教育委員会、日本ペンクラブ、日本文藝家協会、信濃毎日新聞社、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、abn長野朝日放送、FM長野、軽井沢新聞社、軽井沢ニュース（いずれも予定）
- 協力：立命館大学図書館加藤周一文庫、中村真一郎の会（いずれも予定）

加藤周一、中村真一郎、福永武彦の3人は、戦後まもなく『マチネ・ポエティック詩集』『1946 文学的考察』という同じスタートラインで日本の文学社会に登場しました。戦後文学の最初の担い手であり、戦後の軽井沢の文学を始めた一番若い世代でした。昭和20年代を同じラインで活動し、その後、仕事の方向性に違いが出てくるものの、一貫して戦後社会をどう生きるか、平和とは何か、を追究した点は3人に共通します。2018年は中村、福永の生誕100年、加藤周一の生誕99年にあたり、この機会に3人の仕事をあらためて、ゆかりの軽井沢の地で振り返ります。

<関連イベント>

高原文庫の会

8月4日（土）14時～ 講師：中村哮夫（演出家）「わが青春の追分—加藤道夫と福永武彦と—」（仮）
聞き手：矢代朝子（俳優・当館理事） 会場：高原文庫中庭 料金：2500円（パーティー費含む）※要予約

高原の文学サロン

8月25日（土）14時～ 講師：樋口陽一（憲法学者・東京大名誉教授）「「文学」を再定義した文学者—加藤周一さんの仕事について—」（仮） 会場：高原文庫中庭 料金：1500円 ※要予約

軽井沢演劇部朗読会

「福永武彦ミステリー劇場 名探偵・伊丹英典@睡鳩荘」福永武彦（加田伶太郎）「完全犯罪」「温室事件」
7月15日（日）、同16日（月・祝）各13時、17時（4回） 会場：旧朝吹山荘「睡鳩荘」
出演：山本芳樹（Studio Life）、笠原浩夫（Studio Life）、坂本岳大、矢代朝子 料金：4000円 ※要予約